

# 次世代を担う若者が主体的に活動するには？

---

COD(コミュニティをどげんかせんといかん)

太宰府市 溝上 健介

古賀市 高井 恭平

岡垣町 長谷川 穂尚

# ◆本研究における提言について

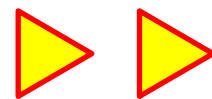
私たちは・・・

「地域活動が一部の人や特定の人だけの活動になりがち」という問題に着目して

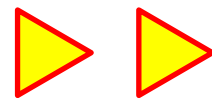
「誰もが主役となって活躍できるまちになっている」という姿を実現するために

「若者が地域で活動しようと思わない」

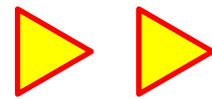
という課題解決について提言します



①現状分析



②事例研究



③政策提言

本題の前に・・・

## そもそもなぜ地域活動が必要なのか？

地域活動におけるメリット

- 人とコミュニケーションをとる貴重な機会になる
- 災害や子育てなどいざという時のネットワークの構築
- 社会性や情緒を育む

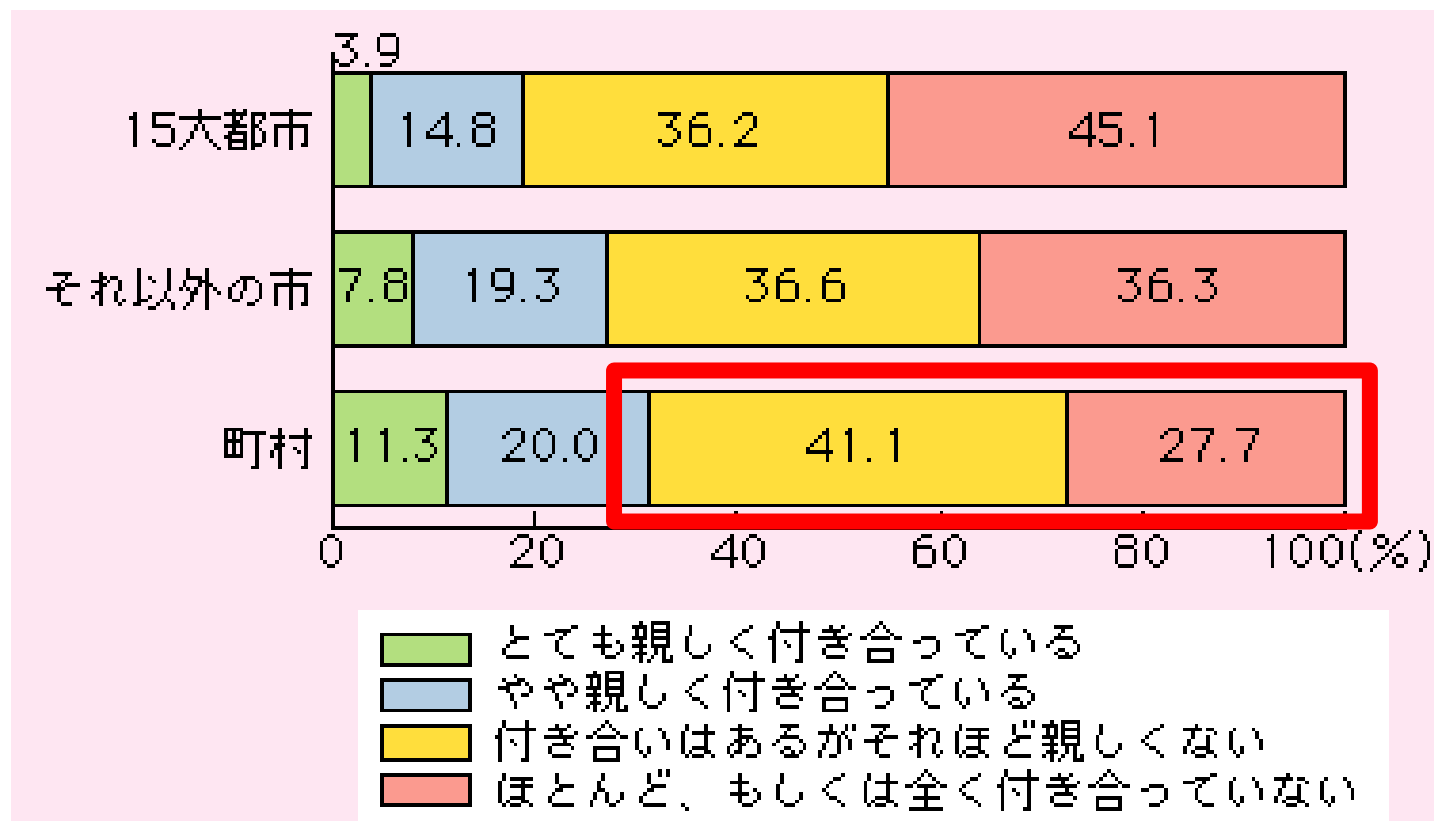
若者・・・学生を含む20代以下の人たち

地域・・・自分の住んでいるまち

# ◆今の日本のマクロな現状について

地域のつながりが希薄化し、隣に住んでいる人もだれかわからない

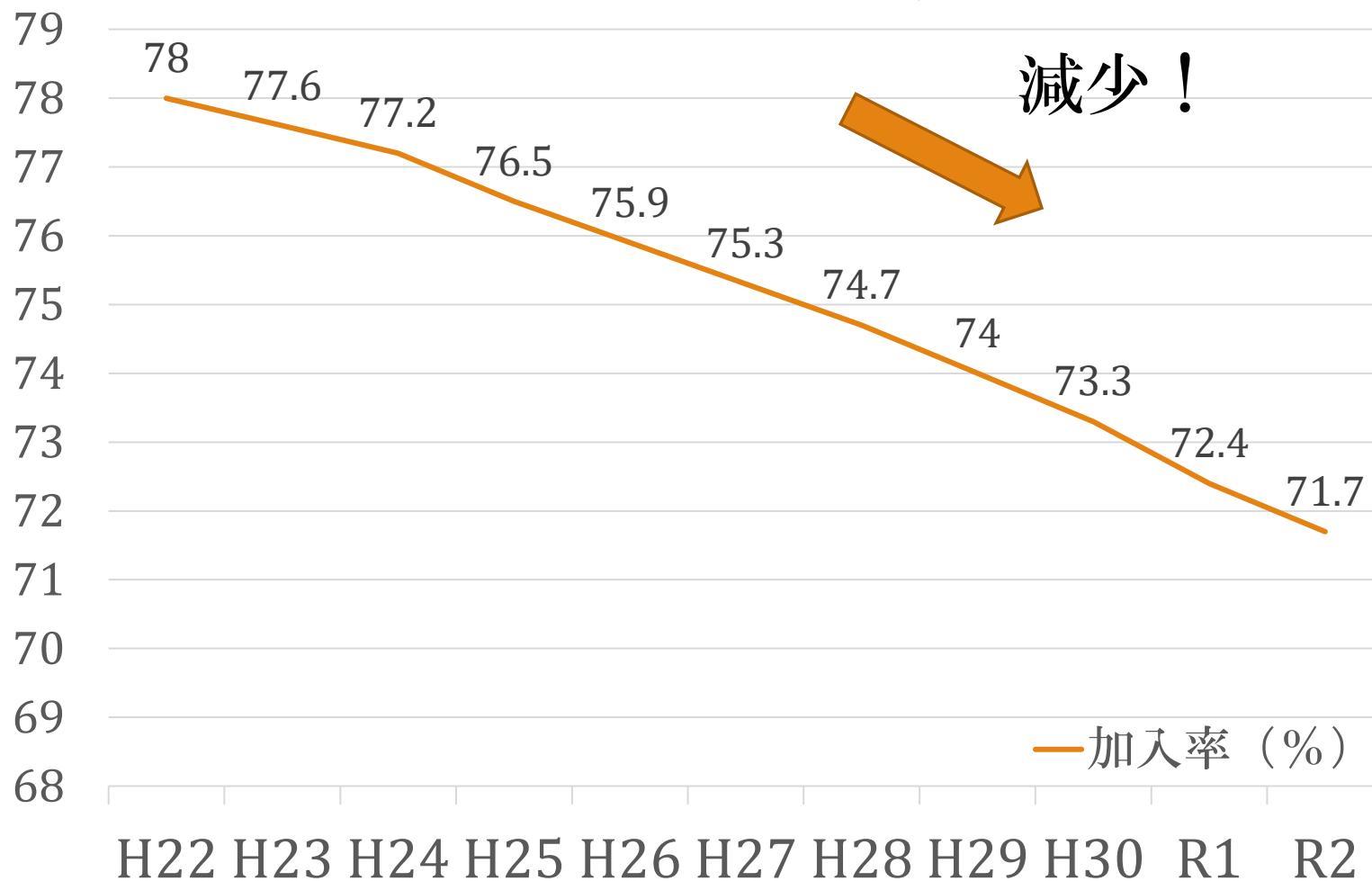
地域の人々との付き合い



(注) 全国の一般世帯を対象に、インターネット調査を実施  
(標本数2,000、平成17年12月調査)

資料) 国土交通省

# 自治会等への加入者は年々減少している

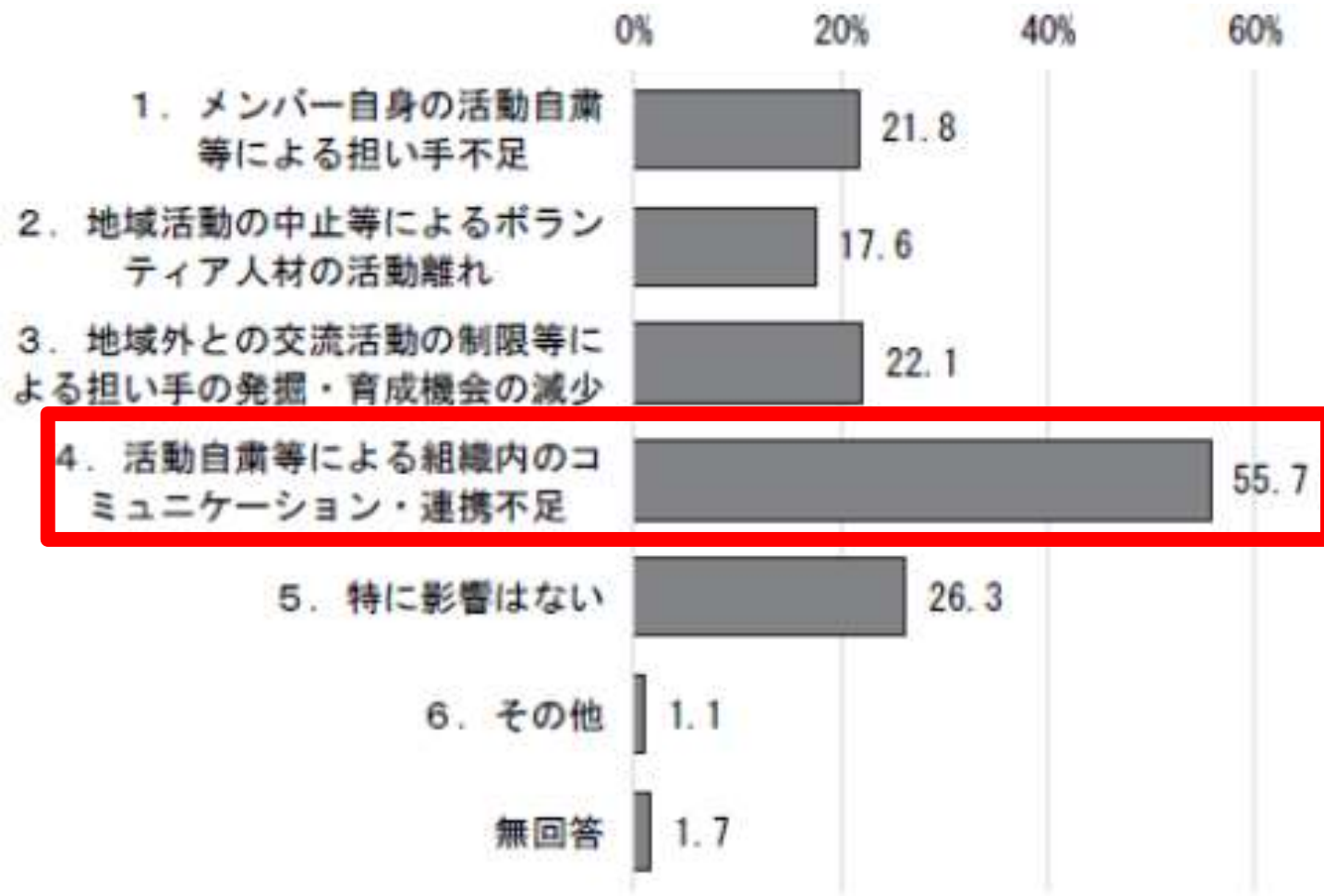


600市区町村における自治会等の加入率の平均

総務省「自治会等に関する市区町村の取組についてのアンケート調査」より

# 新型コロナウイルス蔓延による行動制限、希薄化にも拍車がかかる。

図表 13<地域コミュニティ活動における新型コロナウイルスの影響>



# ◆地域活動における当地域の現状について～太宰府市を例に～

【令和2年度市民意識調査より】

- ・自治会活動への参加状況・・・自治会活動に参加しているのは全体で29%
- ・参加率最高の70歳代以上43.5%に対して、20歳代は4%である。

		標本数	積極的 に参加 している	い えど るば ち ら 参 加 し て い	い えど ない ば ち ら 参 加 し て い	い 参 加 し て い な	無 回 答	参 加 派	不 参 加 派
全 体		591 100.0	34 5.8	137 23.2	89 15.1	326 55.2	5 0.8	171 29.0	415 70.3
性別	男 性	255	6.3	23.1	14.9	54.5	1.2	29.4	69.4
	女 性	322	5.6	23.0	15.8	55.3	0.3	28.6	71.1
	無回答	14	-	28.6	-	64.3	7.1	28.6	64.3
年代別	20歳代	50	-	4.0	4.0	92.0	-	4.0	96.0
	30歳代	60	3.3	5.0	16.7	75.0	-	8.3	91.7
	40歳代	107	8.4	17.8	16.8	57.0	-	26.2	73.8
	50歳代	102	2.0	25.5	13.7	58.8	-	27.5	72.5
	60歳代	120	9.2	26.7	17.5	45.8	0.8	35.9	63.3
	70歳代以上	145	6.9	36.6	16.6	37.9	2.1	43.5	54.5
	無回答	7	-	28.6	-	57.1	14.3	28.6	57.1

(70)

・ボランティア活動への参加状況

ボランティア活動に参加しているのは全体で11.5%である。

・20代の参加率がとびきりよくない

		標本数	積極的に参加している	どちらか参加している	どちらか参加していない	参加していない	無回答	参加派	不参加派
全体		591 100.0	17 2.9	51 8.6	63 10.7	453 76.6	7 1.2	68 11.5	516 87.3
性別	男性	255	3.5	10.6	11.8	72.2	2.0	14.1	84.0
	女性	322	2.5	7.5	9.9	79.8	0.3	10.0	89.7
	無回答	14	-	-	7.1	85.7	7.1	-	92.8
年代別	20歳代	50	-	2.0	8.0	90.0	-	2.0	98.0
	30歳代	60	5.0	1.7	1.7	91.7	-	6.7	93.4
	40歳代	107	1.9	8.4	10.3	79.4	-	10.3	89.7
	50歳代	102	2.0	6.9	10.8	78.4	2.0	8.9	89.2
	60歳代	120	1.7	10.0	8.3	78.3	1.7	11.7	86.6
	70歳代以上	145	5.5	14.5	17.2	61.4	1.4	20.0	78.6
	無回答	7	-	-	14.3	71.4	14.3	-	85.7

問題 → 若者の地域活動への参加がよくない



## 問題

若者の地域活動への参加が良くない

なぜか？

他にやりたいことがたくさんある

- 趣味・娯楽への活動が増えている
- ICT→スマホの普及

若者が入りこみにくい雰囲気が地域活動の中にある

- 世代間のギャップ（ルールをめぐる苦情）
- 役員の固定化
- 活動のマネリ化

活動の魅力を伝える人がいない

- 役員の高齢化
- 次の人を育てられていない
- 担い手不足



## 課題

若者が地域で活動しようと思わない

課題

# 若者が地域で 活動しようと思わない

若者世代の地域活動への  
参加率が良くない。参加率が上が  
れば、地域活動はより充実する。

あるべき姿

誰もが主役となって  
活躍できるまちに  
なっている

# ◆現地調査①

## ①福井県鯖江市の取り組み～鯖江市役所JK課プロジェクト～

- 「鯖江市を面白くする案」としてJK課が提案され、市長が採用する。
- JK課は「若い人がまちづくり」の象徴となっており、他の地域活動でも「こっちも頑張らないと」と活発になっている。

活動を視察



- 佐々木勝久鯖江市長との会話の中で
  - ・高校生自身が自ら企画してやることに意味がある。
  - ・高校生が動くことで大人自身も何かをしなければと思いいろいろと協力してくれる。



「若者が変われば大人が変わり大人が変われば地域が動く」

# ◆現地調査②

## ②福岡県太宰府市の取り組み～太宰府キャンパスネットワーク会議～

●学生の街ならではの問題（騒音・ゴミなど）の解決や地域と大学をつないで関係をよりよいものとして、より魅力的なキャンパスシティの創造を目指すため、太宰府キャンパスネットワーク会議が設立。

●市のイベント等にボランティアに来てくれたりなど、昔に比べて地域に学生が行くようになった。また、大学側も積極的に地域貢献事業や市へ協力いただいたりできるようになったりなど、地域課題の解決や調査に学生や大学の協力が得られるようになった。

活動参加者にアンケート実施～アンケートから見えてきたこと～

- ・当初から参加意欲が高いわけではない
- ・しかし、大人のサポートによって知ることで意欲が高くなってきている



地域や行政によるきっかけを作ることが大事！！



キャンパスフェスタ開催  
(コロナ禍後初開催)

2つの事例から見えること・・・

- ・活動するためには地域・行政などが活動できるように様々な面からサポートするなどしている。
  - ・若者の頑張りが大人にも良い影響を与えている。
- 若者は活動したいと思うきっかけ、地域（行政）は支援（サポート）したいと思うきっかけが活動をとおして芽生える。



少しのきっかけで地域が変わり

みんながまちを好きになる

若者と地域を結ぶ『ひとづくり』

# 若者が主体的に地域活動に取り組むためのミッション

👍 ポイントは『ひとづくり』

若者

双方からのアプローチが必要

地域

『若者』の  
ひとづくり

- ①若者が地域を好きになるきっかけづくり
  - ・〇〇まちのここが嫌い！事業
  - ・自己肯定感爆上げ事業

『地域』の  
ひとづくり

- ②地域が若者のフィールドとなる基盤づくり
  - ・地域をつなぐインフルエンサーの育成事業
  - ・地域活動プロデューサー事業

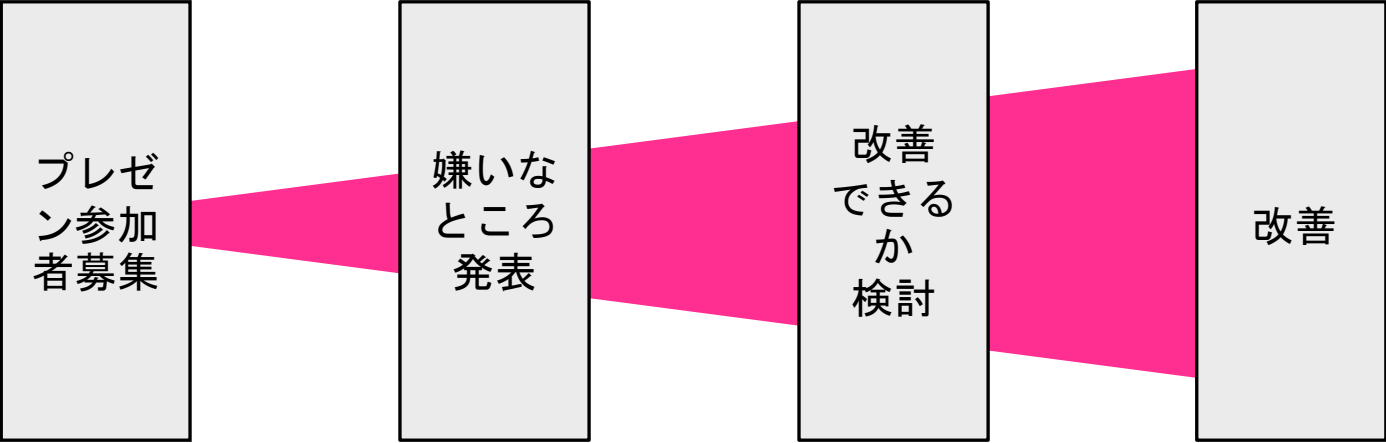
# 課題解決に向けた具体的政策（若者の『ひとづくり』）

## 〇〇まちのここが嫌い！事業

### 概要

学生から首長・議員・地域住民に向けて「まちの嫌いなところ（改善してほしいところなど）」をテーマに自身の考えを発表（プレゼン）してもらい、まちの問題点の把握や改善につなげる。また若者の声に耳を傾けることで、若者のまちづくりへの参加意識を高めていくことや、若者にとって住みやすいまちづくりへの展開をめざし、まちへの愛着心向上を図る。

### 事業イメージ



DEMO  
(意見)

- 改善してほしいところを考えることは考えやすいと思う。
- 実際に改善につながっていけば、まちへの愛着や信頼感に結び付くと感じる。



課題

- 発表内容の想像がつかないため、改善の保証を行うべきではない



期待  
される  
効果

- 提案内容が政策に結び付いた際にはまちへの愛着心の向上が見込まれる
- 若者のプレゼン力向上が見込まれる
- 政策に結び付いた際にまちの話題にしやすい
- 対象や実施方法を変えることで、類似事業として展開しやすい



# 自己肯定感爆上げ事業

## 概要

学校や家庭、地域活動などにおいて、子どもたちの主体性を高めるため、周囲の大人に対し、子どもの育ちについて学ぶ機会の提供やきっかけづくり、叱り方に特化した講座の開催などを行い、子どもたちがのびのびと育つことができるようなまちの環境づくりや雰囲気づくりを目標とする。

## 事業 イメージ



自己肯定感爆上げ講座開催

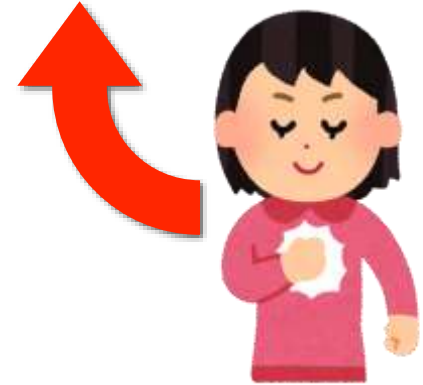
学校・家庭・地域・PTA  
との連携による啓発活動

環境・雰囲気づくり



DEMO  
(意見)

- 学校や家庭、地域が連携して、取り組むことができ、子どもがのびのび育つような環境ができていけば、より選ばれるまちになっていくと思う。



課題

- 雰囲気づくりや環境づくりを念頭に置いているため、長期スパンでの事業実施が想定される。



期待  
される  
効果

- 子どもたちの心の安定や自主性の向上が見込まれる
- 子どもとの接し方について、見直すきっかけとなる
- 子どもたちが自身の考えを臆せずアウトプットできる環境が構築される

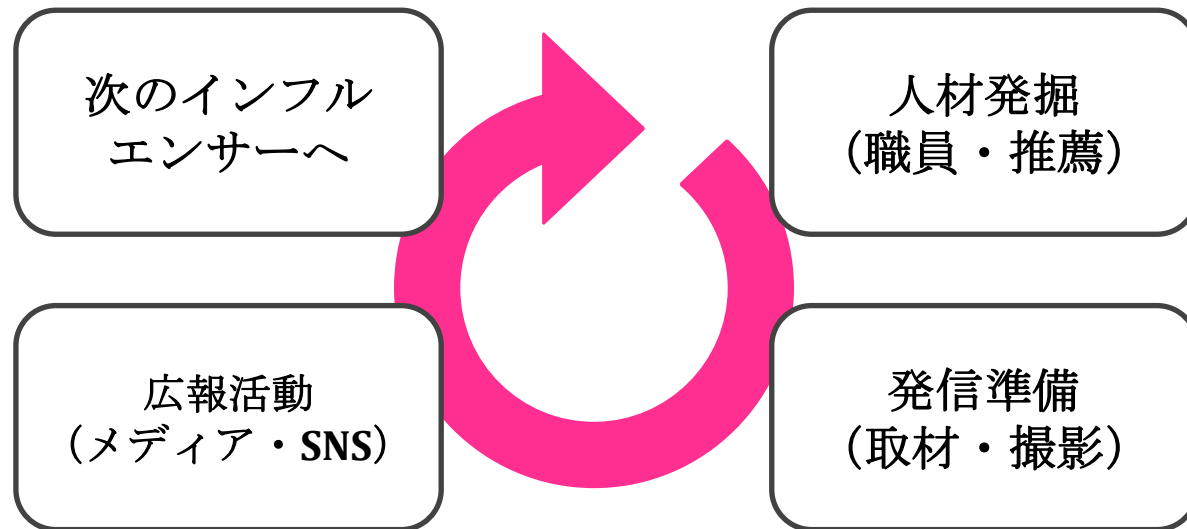
# 課題解決に向けた具体的政策（地域の『ひとづくり』）

## 地域をつなぐインフルエンサー育成事業

### 概要

地域活動で優れた能力や強い熱意を持った人材をピックアップし、広報媒体やSNSの発信を通じ、地域内に突出した認知性や影響力を持つ地域インフルエンサーとして育成し、地域活動の魅力を高め、活動者の増加や活動の推進を図ることを目的とする。

### 事業 イメージ



DEMO  
(意見)

- ・頑張っている人にスポットライトが当たることで、活動の推進や周囲の人にも良い影響を与えることができると思う。



課題

- ・認知度アップの指標設定が難しく、一方通行の情報発信となってしまう恐れがある。



期待  
される  
効果

- ・対内的に認知度が広まり、活動の推進や活動の輪が広がる
- ・インフルエンサー側の活動の推進につながる
- ・職員や地域の人々が地域のことを見て、考え、知るようになる

# 地域活動プロデューサー事業

## 概要

有志の職員を地域活動プロデューサーに任命し、ともに地域活動を行ったり、若者や地域役員の相談相手となったりすることで、職員と地域の交流を図りながら、地域活動の課題解決を図る。

## 事業 イメージ

若者



何か有意義な活動が  
したいな～  
支援してもらったり  
はできないだろうか



地域役員

行事も多いし、マン  
ネリ化。多世代で交  
流するなど、新しい  
取組みができないだ  
ろうか。



地域活動プロデューサーに相談

アドバイス

実行

## DEMO (意見)

- まちと地域のパイプ役にもなり、プロデューサーを通してまちに支援を求めやすく、地域の問題（要望）の把握がしやすくなる



## 課題

- 有志の職員があつまるかがわからない
- 有志職員のインセンティブの確保
- 相談があつてからの活動になるため、ない場合は活動ができない

## 期待 される 効果

- 地域内での新たな気づき、発見や交流が見つかる
- 職員が地域とのパイプ役となり、相互の交流が密となる
- 地域との交流を通じ、職員としての成長が見込まれる

# 若者が地域で活動しようと思わない

課題

『若者』の  
ひとづくり

- 若者が地域を好きになる  
きっかけづくり
- ○○まちのここが嫌い！事業
  - 自己肯定感爆上げ事業

学校

地域

家庭

『地域』の  
ひとづくり

「ひとづくり」で  
若者と地域がつながっていく

- 地域が若者のフィールド  
となる基盤づくり
- 地域をつなぐ  
インフルエンサー育成事業
  - 地域活動プロデューサー事業

あるべき姿

誰もが主役となって  
活躍できるまちに  
なっている

地域活動が担っている役割や必要性は様々

多岐多様、これといった正解はない

本提案がこれからの地域活動の活性に繋がれば幸いです

ともに頑張りましょう！

